

## 鋳 工 業

第2次世界大戦終えん後、早くも10年の年月を経たが、その間、産業の復興、経済の振興は、国の重要施策として多くの努力が払われてきた結果、我が国の鋳工業は、着々とその水準を向上し、内容を充実してきた。

本県の工業生産額も、昭和10年には、全国の第26位であつたが、昭和25年には、222億円で全国第24位、朝鮮動乱後の昭和29年には、791億円で第19位となり、追々工業県としての地盤を固めてきたのである。このことを「鋳工業生産指数」からみると、昭和23年を100.0とした総合指数が、昭和30年には約2倍の198.0に飛躍している。しかし、各産業部門とも、一様に指数が伸びたのではなく、繊維、皮革、土石の各産業は前年に較べて低下している。

次に、本県の製造工業をみると、昭和30年の工場数は6 587で、その内、従業者3人以下の工場は56%を占めている。これは、本県の工業が中小企業の基盤に立つ軽工業（鉄鋼、非鉄金属、各種機械製造以外）を主軸とするもので、これが全工場数の93%に及び、京浜工業地帯の中心を成す神奈川県では、従業者3人以下の工場が44%、軽工業に属する工場数は、全体の85%である。

産業部門別では、生産原材料の農水産物に恵まれている「食料品製造業」が王座を占め、全工場数の49%で約半数に近い。次いで、「木材及び木製品製造業」が15%を占めているのも、本県がこれら資材を持つためである。

昭和26年に、千葉市南方埋立地へ製鉄所を誘致し、京浜工業地帯に連なる京葉工業地帯を型造る第1歩を踏み出してから、急速に県の工業化は進展する機運に向い、特に、工場立地条件の良いといわれる京浜地帯が、既に飽和点に近い現況では、今後、本県が工業県へ躍進することは、当然進むべき道であろう。